第７号

奈良県立大学情報誌

コモンズ

Commons

― 学びの共同体 ―

■ “地域交流棟は”こんなところ…P1～2
■ 都市文化コモンズ2年生による成果発表展
「頭の上の展覧会」…P3～4
■ 桜井市本町通のコミュニティの活性化に向けて
～多世代交流「ほっとスペース」プロジェクト～…P5～6
■ 新任教員の紹介…P7～8
■ 2015夏秋・奈良県立大生のボランティア活動報告…P9～10
■ 本学の連携協定の締結について…P11

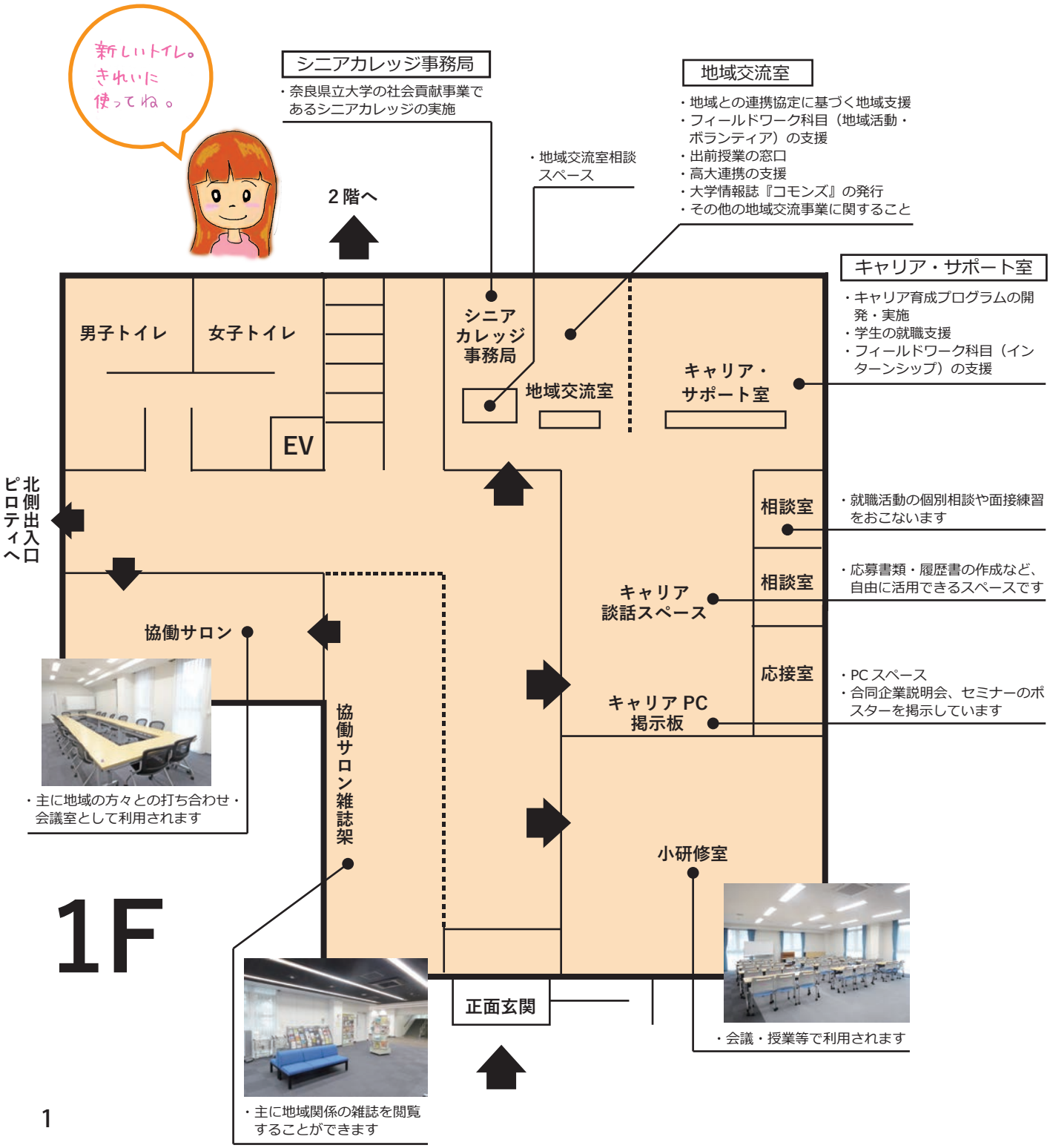
文部科学省
地(知)の拠点

新校舎

“地域交流棟” はこんなところ

本学の正門入って右手に新校舎 “地域交流棟” が誕生しました。1 階には地域交流室とキャリア・サポート室が、2 階には国際交流室とユーラシア研究センターが設置され、各階には会議や打ち合わせの場も備えています。学生・教員・地域の人々が集う、新たな“地 (知) の交流拠点”として様々な活用が期待されます。

※ 2015 年 11 月現在の配置図です。配置は予期なく変更する場合がございます。
なお、棟内の会議室、研修室等の施設利用につきましては本学の許可が必要です。



・屋上には“ひょうたん芝”があります。若草山や東大寺が一望でき、景色がとてもきれいです。

N

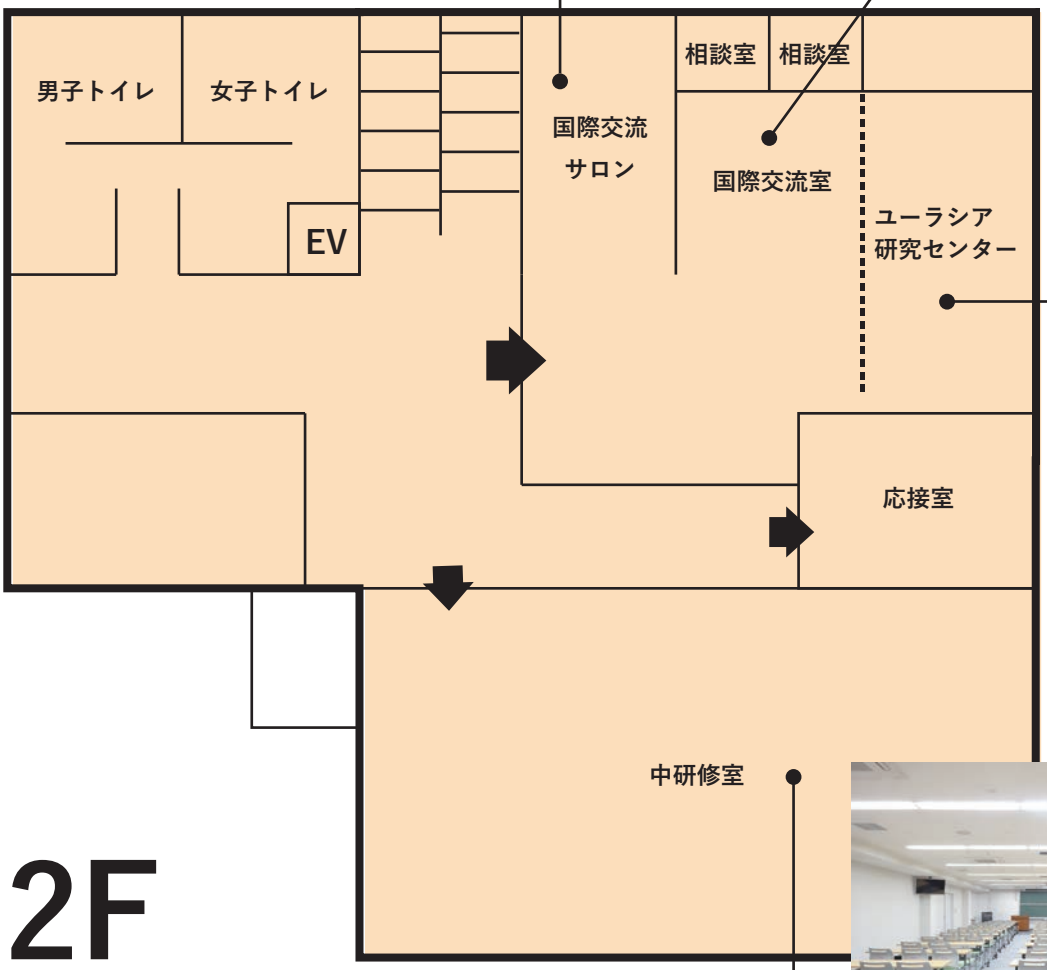
屋上へ

3 階へ

1 階へ

国際交流室

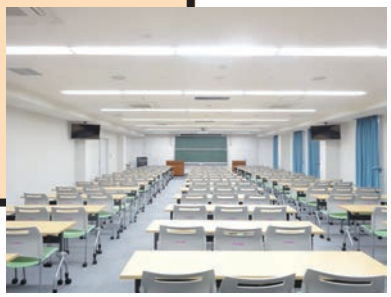
・交換留学生の派遣及び受け入れ
・フィールドワーク科目（国際交流・異文化体験等）の支援
・海外の大学との学術交流
・海外語学研修の支援



ユーラシア研究センター

・奈良県とユーラシアの歴史的交流を踏まえて、その連携と交流の推進をはかります

2F



・会議・授業等で利用されます

地域交流棟全景

・古都奈良の街並みにふさわしいアースカラーを基調としています。

都市文化コモンズ 2 年生による成果発表展「頭の上の展覧会」

都市文化コモンズでは、平成 27 年度から「創作演習」という新しい授業が始まりました。この授業では、アート作品の制作を体験して、企画立案や広報、展示、記録などの手法を学び、それらを通じて都市の現実社会やコミュニケーションのあり方を考えることを目的にしています。本稿では、学生がアイデア出しから制作、展示までの一連の流れを体験した、「頭の上の展覧会」という活動についてご紹介します。

■「頭の上の展覧会」って？

演習を担当した筆者は、ケニアを訪れた際に人々が日常的に行う頭上運搬を目の当たりにし、その姿に魅了されました。頭の上でモノを運ぶ人々の姿がパフォーマティブなだけでなく、頭の上に何が置かれているのか、ついつい気になって見つめてしまうことを考えれば、頭の上は、「作品を見せる展覧会の会場」として機能するのではないか。

こんな発想をもとにして学生に提示したお題が、「頭の上の空間を、何かを見せる展覧会場や何かが起こる場として捉えて、アート作品やワークショップを企画・制作してみよう」というもの。普段はあまり考えることのない、頭の上の空間に目を向けることから演習がスタートしました。

■ アイデアを発展させ、作りながら学ぶ

学生は 6 グループにわかれて作品を制作します。まずはブレインストーミングで自分たちが「これは面白い！見てみたい！」と思えるアイデアを探っていきます。はじめは当惑していた学生も、「頭の上の空間にすでにあるものをまずは挙げてみよう」と助言すると、「髪の毛」「雲」「傘」「吹き出し」「信号機」「電球」「人工衛星」「枕」「目覚まし時計」「鳥の巣」「タケコプター」……と、いろいろ出てきます。

そして次に、「ではこうした要素の既存のあり方や使い方にどのように変化を与えると面白くなるか」、あるいは逆に「普段は頭の上にはないが、頭の上に持ってくると面白いものは何か」というふうにして考えを発展させます。

こうして出されたアイデアが以下の 6 つ。「開くとくす玉のようにお祝いされる傘」「壁に描かれた吹き出しに人が加わることで完成する絵／ス

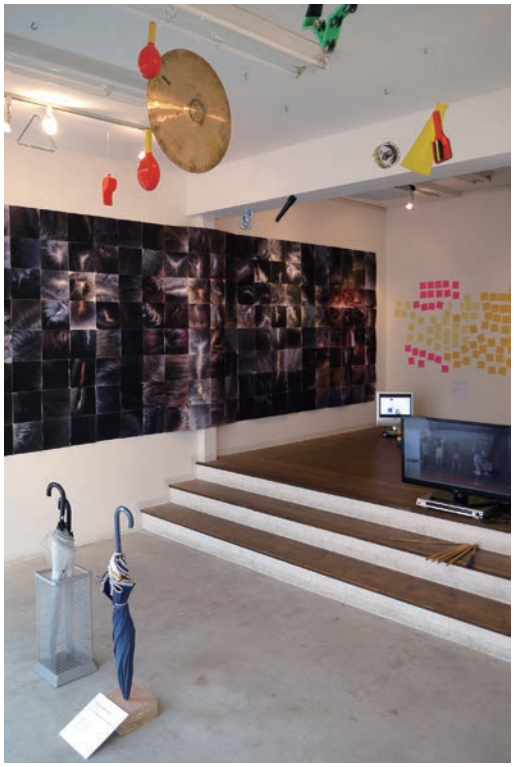
展覧会チラシ

トーリー」「頭頂部の写真を集めて作るモザイクアート」「楽器を高いところに吊るすことでジャンプしなければならない演奏会」「頭の上で遊ぶダルマ落とし」「頭の上の吹き出しを使って筆談で会話するリアルなLINE」。いずれも説明を聞くだけで、まさに「面白そう！」なものが揃いました。

しかし、美大生ではない本学の学生にとって、アイデアを形にする作業はなかなか難しかったようです。これまで展覧会などで作品を鑑賞したことはあっても、いざ自分たちで作るとなると何から始めればよいのかわからないのです。確かに同じアイデアでも、それを形にする方法は幾通りもあります。「なぜこの素材か」「なぜこのサイズか」「なぜこのトリミングか」……。答えはひとつではありません。自分たちのアイデアを第三者に伝えるために、適切な解を自ら見つけていくしかないのです。できるだけ筆者も手助けをしながら、悩んで手を止めるのではなく、とにかく作りながら考えるように促しました。

■ 第三者へ表現を開き、新しいコミュニケーションを生み出す

完成作品は、「都市文化コモンズ 2 年生による成果発表展『頭の上の展覧会』」として公開しました。まず本学の地域交流棟を使って展示公開（会期：2015 年 7 月 23 日）したあと、筆者も企画に参画している東京都荒川区におけるアートプロジェクト「アラカワ・アフリカ 6」（会期：2015 年 8 月 17 日～23 日）へと巡回しました。「アラカワ・アフリカ」は、現代アートを通してアフリカ地域と荒川区を想像的・創造的につなげようとする取り組みです。ケニアの頭上運搬からイメージを飛躍させた本学学生による作品は、「アラカワ・アフリカ」のテーマにふさわしいとして展示が実現したのです。



展示風景：
「アラカワ・アフリカ６　頭の上の展覧会」2015、ギャラリー OGU MAG、東京

来場者からは、「同じ『頭の上』をテーマにこれだけ違う発想ができるのがすごい」「発展性がある。実施する世代や国、会場や規模を変えればもっと面白くなる」「吹き出しや LINE などのモチーフが世代を感じさせる」「アフリカの人たちにも見てもらうべき」「学生に荒川区民を対象としたワークショップをしてもらいたい」などさまざまな意見が寄せられました。

また、展示会場で来場者を迎えた学生は、「実際に作品を体験してもらえて、楽しんでもらえたことが一番うれしかった。制作は大変だったが、やってよかった」と、感想を述べてくれました。このように、展覧会を開くことは実際的なコミュニケーションを生み出すことにもつながります。

新しいアイデアを考えるための想像力と、それを形にする創造力。都市文化コモンズの「創作演習」では、手を動かしながら面白いことを追求する過程を通して、これら二つの力を実践的に養っていきたいと思っています。

（都市文化コモンズ　講師　西尾美也）

桜井市本町通のコミュニティの活性化に向けて
～多世代交流「ほっとスペース」プロジェクト～

本学と桜井市は、平成 20 年に包括連携協定を締結するとともに、文部科学省地（知）の拠点整備事業における協働や、桜井市まほろばセンター（エルト桜井 2 階）への本学地域サテライトの設置等の連携を図っています。今年度は、新たに佐藤・梅田専門ゼミの学生（3 回生）が中心となり、歴史ある商店街のコミュニティ再生に向けた活動が始まりました。

1．「ほっとスペース」づくりに向けて

本町通は、旧伊勢街道沿いの歴史ある商店街です。最盛期の昭和 40 ～ 50 年代には、多くの買い物客で賑わうとともに、お祭りや週末の屋台の出店等、桜井市のコミュニティの拠点でもあったそうです。しかし、その後の商業環境の変化から、閉店を余儀なくされる店舗も多く、近年は商店街の象徴であったアーケードの撤去が進み、まちの性格も大きく様変わりしつつあります。

そうした中で、コミュニティの再生をめざし、①次世代を担う子どもやその親たちが集える場を創造する、②地域の多世代の方たちの交流を生み出す、ことを目的に、「ふれあいカフェ」等のイベント実施や地域住民向けのマップ作成、子育て世代などの地域交流の実態調査等の実施を提案し、桜井市市民協働推進補助金「公益活動コース」に採択されました。その実現に向けた協議の中で、本町通に拠点を構える桜井市本町通・周辺まちづくり協議会のご協力のもと、長年、青果店として地元に愛され、20 年ほど空き家になっていた店舗をお借りすることができ、多世代のふれあいが生まれる居場所「ほっとスペース」づくりが始まりました。

2．活動のようす

まず、本年 5 月から、専門ゼミ活動として、本町通やその周辺でまちづくりに関わっていらっしゃる方やお店の方たちへのインタビュー調査を始めました。7 月から「ほっとスペース」づくりに向け、空き店舗の大掃除、広報やイベント準備等を行いましたが、熱暑の中で作業する学生の姿を見て、地域の方々から多くの励ましの声をかけていただき、活動の意義を再認識しました。

8 月 20 日（木）の 1 回目のイベント、「木工モビールをつくろう！」は、製材業で栄えた桜井市にちなんだイベントとして企画したものです。夏休み期間中ということもあり、2 歳から中学生までの子どもたち約 20 名や、親御さんや祖父母の方たちまで集まり、学生たちと一緒に木を使ったモビールを作りました。

多世代が集まった「木工モビールをつくろう！」

第 2 回（9 月 20 日）は、古い街の写真を展示しながら、レトロな雰囲気の中で「ほっとカフェ」を開催しました。年配の方たちとお茶を飲みながら昔の本町通のお話等を伺いながら、ゆったりとした休日の午後を過ごしていただきました。

第 3 回・第 4 回は 10 月のイベントとして、「本町通でハロウィンを楽しもう♪」という企画を催しました。10 月 4 日（日）には、ハロウィンをテーマとした小さなワッペン作りを、25 日には、そのワッペンをつけた 50 名近い子どもたちと、仮装した大学生 12 名が、本町通の商店街の 10 か所以上でスタンプシールやお菓子をもらいながら、元気にまちの中を歩きました。普段、子どもの来店は少ない呉服屋さんや酒屋さん等も大勢の子どもたちの来襲に、笑顔で応対していただき、通りにはお菓子を手にして大喜びの子どもたちの声があふれる賑やかな一日となりました。

真剣な表情で取組むワッペンづくり

仮装した子どもや学生たちで賑わう「ほっとスペース」

呉服屋さんに、賑やかな子どもたちが襲来

合言葉を言って、シールとお菓子をもらう、ちびっこたち

3. これから

こうした多世代が交流できるイベントやその準備に合計 20 数回、延べ 100 人以上の県大生が本町通で活動し、少しずつ古い空き店舗がコミュニティの場として認識されはじめています。また、地域の多くの方たちのご協力のもと、学生が企画した「居場所づくり」を実践できることに加え、地域の方たちから直接お話を聞くことができ、研究活動としても有意義なものとなっています。

学生たちのここでの活動が、本町通の持つ魅力を地域の若い方々にも気づいてもらい、まちの活性化や再生につなげていくことができれば、と思います。

今年度は、テーマを変えながら、1 月まで「ほっとスペース」での活動を実施する予定です。皆様のお越しをお待ちしています。

（コミュニティデザインコモンズ　准教授　佐藤由美、講師　梅田直美）

新任教員の紹介

※ 平成 27 年度学生便覧教員名簿順に表記

大和 里美　准教授　（観光創造コモンズ）

2015 年 4 月に着任し、観光ビジネス論、ホスピタリティ論を担当しています。私と観光との関わりは、テーマパーク運営会社に勤務したことから始まります。大学院修士課程では経営学を専攻していたこともあり、当初は観光関連企業を対象とした調査などを行っていましたが、人口減少や高齢化が進む多くの地域が観光振興に取組む中で、観光による地域活性化について研究したいと思い大学院に戻りました。そして、観光と地域イメージをテーマに博士学位論文をまとめ、2013 年に大学院博士後期課程を修了しました。

現在は、観光によるまちづくりをテーマに観光が生む価値や地域に与える影響について研究しています。

観光は経済的な波及効果も大きく、交流人口が増えることで賑わいを生み、移住に繋がる可能性を持つというプラスの面がある一方で、交通渋滞やごみが増えるなどの負の側面もあります。「住む人が幸せであるためには何が必要か」を常に考えながら、これからも実務や研究に取組んでいきたいと思います。

窪田 暁　講師　（都市文化コモンズ）

わたしはこれまでドミニカ共和国からアメリカに渡るプロ野球選手を移民として捉え、彼らの移住の実態と故郷の人びととの関係に注目することでドミニカの社会や文化を人類学的な視点から明らかにしてきました。調査をはじめて 10 年以上になりますが、訪れるたびに調査地の変化に戸惑います。とくに働き盛りの世代が次々にアメリカへ移住していく流れに歯止めがかかりません。そのため、わたしのフィールドワークもドミニカの行き帰りにボストンに立ち寄り、彼らのアメリカでの生活を調査する方向にシフトしはじめています。本学では「都市調査法」と「都市人類学」を担当していますが、アメリカの大都市に移住したドミニカ移民が母国の文化をどのように維持しつつ、移住先の社会とどのように折り合いをつけながら生活を営んでいるのかについて紹介していきたいと思います。こうした事例を通じて、世界的に進行する都市の多民族化を理解する糸口をみなさんと一緒に考えていきたいと思います。

鶴谷 将彦　講師　（コミュニティデザインコモンズ）

私は、政治学・行政学（地方自治）の研究者です。特に、1990 年代の一連の制度改革に伴う地方政治の変動について興味を持って研究しています。この研究を私が取組むきっかけは、大学生時代に行った国会議員インターンシップの経験でした。政治を学ぶ事は、学部時代から興味を持っていましたが、現場の政治家（議員）が、どのように活動し、選挙で当選を目指しているのかを間近に見ている中で、政治家・選挙の面白さを知りました。それを当時の指導教授に 3 年生のゼミで報告する中で、現実の日本政治の展開をどのように理解するのかということに一つの正解はないという学問 (政治学) の奥深さを知りました。これが私の進路選択に大きな影響を与えました。

この大学は、フィールドワークを取りやすいカリキュラムになっています。さらに、深く掘り下げるコ

モンズゼミや専門授業も用意されています。学生の皆さんには、自分に合ったコモンズゼミと自分の好きな学問を見つけて下さい。

西尾 美也　講師　（都市文化コモンズ）

都市文化コモンズの西尾美也です。コモンズゼミでは創作演習を中心に、講義ではミュージアム論や現代アート論を担当しています。現代美術家として、装いの行為とコミュニケーションの関係性に着目した実践的な研究を国内外で展開しています。また、そうした脱美術館的な活動を探究する過程で赴くことになったケニアとの関わりをきっかけに、アフリカと日本をつなぐアートプロジェクトの企画・運営もしています。21 世紀に入り芸術の世界も様変わりしています。アトリエにこもって制作をする近代的な芸術家像から、社会へ介入する／社会で機能する表現者のあり方を模索する動きが盛んになり、地域にとってアートが果たし得る役割にも注目が集まっています。奈良に生まれ育った身として、またこうした時代に生きる現代美術家として、芸大や美大ではなく本学の地域創造学部に身を置いて教育研究に従事すること自体が、表現者としての新たな挑戦だと思っています。

松岡 慧祐　講師　（都市文化コモンズ）

私の研究テーマは「地図の社会学」です。このように言うと不思議そうな顔をされることも多いのですが、地図は「社会」によって作られ、また、私たちにとっての「社会」のイメージを構築するメディアだと言えます。最近は地図のデジタル化などを背景に、地図と人間・社会の関わりは大きく変わりつつあります。そのなかで、私はとくに〈マップ〉と呼ばれるような多様な地図が身近にあふれるようになっていることに注目しています。たとえば、観光マップや防災マップなど様々なテーマのマップがありますが、どのようなマップが描かれ、読まれるかによって、都市のイメージ、文化、コミュニケーションのあり方は大いに変わってくる可能性があるのです。そこで、都市文化コモンズの「創作演習」では、学生とともにマップの制作に取り組み、学生の自由な発想とマップという自由な表現の化学反応を生みだすことで、その可能性を実践的に研究することを試みています。

薬師寺 浩之　講師　（観光創造コモンズ）

講義は「アジア観光交流論」と「アジア資源論」を担当します。講義名からわかる通り、私の関心はアジア（特に東南アジア）の観光です。近年目覚ましい発展を遂げている東南アジアにおける地域社会と観光の関わり（観光は地域社会にどのような影響をもたらしているのか、また逆に地域社会の変化は観光にどのような影響をもたらしているのか）を大きなテーマとして、タイ・マレーシア・カンボジアで研究を行っています。最近では、東南アジアのバックパッカーツーリズム、ボランティアツーリズム、ダークツーリズムに関心を寄せています。

講義やゼミでは、観光について理解を深めるだけではなく、グローバルな視点で物事を理解することの重要性や楽しさと難しさ、さらにグローバルな時代だからこそ地域に根ざしたローカルな視点も益々重要になってきていることなども教授したいと思います。

よろしくお願い致します。

2015・夏秋 奈良県立大生のボランティア活動報告

奈良県立大学では、学生が主体的に現場に出て、調査や社会活動に参加することで、地域の具体像を学ぶというフィールドワーク学習に重点を置きつつあります。それに伴い「地域への理解と関わり」のワンステップとして、積極的にボランティア活動に参加する学生も増えてきました。ここでは、県大生が、この夏から秋にかけて取り組んだボランティア活動の一部を紹介します。

〈第 21 回全国金魚すくい選手権大会　審判員ボランティア〉

大和郡山市の夏の風物詩となっている「全国金魚すくい選手権大会」に、本学、地域創造学部 1 年生から 3 年生までの学生有志が、審判員ボランティアとして参加しました。

大和郡山市役所職員による審判員講習会
場所：本学 4 号館

フィールドワーク（学外活動）を重視する新カリキュラム導入にともない、昨年度よりも多くの参加者がありました。例年と同じく、大会前に「審判員講習会」を本学にて開催しました。講習会当日は、悪天候にも関わらず、大和郡山市役所地域振興課職員の方々に、実際の金魚や水槽、大会で使用されるポイなどの競技用具をご持参いただき、実戦さながらに、公式ルールを丁寧に解説していただきました。卒業後の進路の 1 つとして公務員志望の多い本学学生にとって、大和郡山市役所職員の方々と接することは、多種多様な公務員の業務を知る良い機会となりました。

県大生は、8 月 22 日（土）・23 日（日）に実施された奈良県予選大会と全国大会の両日とも、審判員ボランティアとして、熱心に審判員の役割を務めました。長年、審判員ボランティアをされている地域の方々や、奈良県内の郡山高校や西の京高校などの高校生と一緒に活動しました。このような地域の特産物を使用したイベントが地域活性化につながることを学び、地域の方とお揃いのスタッフ T シャツを着てボランティアをすることにより、地域の方の地元に対する思いを知ることができました。今後も、様々なボランティアや地域活動に参加することで、本学地域創造学部での学生生活をより豊かなものとし、将来、地域に貢献できる人材として活躍することを期待しています。

第 21 回 全国金魚すくい選手権大会・奈良県予選大会での審判員ボランティアの様子　場所：大和郡山市金魚スクエア（総合公園施設多目的体育館）

〈なら国際映画祭 2016 プレイベント「星空上映会」〉

平城遷都 1300 年目の 2010 年より始まった「なら国際映画祭」（運営団体：NPO 法人なら国際映画祭実行委員会）。2016 年 9 月に第 4 回目開催となる「なら国際映画祭 2016」のプレイベントとして「星空上映会」が、9 月 20 日（日）・21 日（月祝）・22 日（火祝）の 3 日間、奈良公園の春日野園地にて開催されました。県大生はボランティアスタッフとして会場設営・受付・誘導等のお手伝いをして、このイベントに参加協力をしました。野外での上映会ということもあり、お天気が心配でしたが、期間中は好天に恵まれ、多くの観客が「星空上映会」を満喫しました。

なお、なら国際映画祭では、奈良市内の各所において、ワンコイン（500 円）で映画鑑賞ができる移動型映画館「ならシネマテーク」を毎月開催して、奈良の映画文化の普及に努めています。その「ならシネマテーク」においても県大生数名がサポートに加わっています。

〈采女祭（うねめまつり）〉

古都奈良の秋を彩る雅やかな観光行事として知られる采女祭（奈良市観光協会内 采女祭保存会主催）が 9 月 27 日（日）に催されました。この采女祭には、例年、艶やかな天平衣装や春日大社の白衣を身に着けて猿沢池近辺までを練り歩く、時代行列の「花扇奉納行列」に県大生が参加をしています。

「天平人による広報活動」

今年は、特別事業として、その「花扇奉納行列」に加えて、前日の宵宮祭と当日の本祭開始前に、近辺を訪れた観光客に天平衣装で采女祭開催をアピールする「天平人による広報活動」が実施され、県大生も、三条通りや猿沢池近辺の商店街でチラシの配布や案内で協力をしました。近年は奈良を訪れる外国人の観光客がとても多く、中には一緒に記念撮影を求められるという場面も見られました。外国の方にとっては、初めて見る天平衣装は新鮮に映ったのかもしれません。

今回、采女祭には初参加という県大生がほとんどだったので、学生自身にとっても、奈良の伝統行事を体感できる貴重な経験になったのではないかと思われます。

香芝市・上牧町・広陵町と奈良県立大学が包括的連携協定を締結しました

奈良県立大学は、平成 27 年 6 月 2 日（火）に香芝市、8 月 26 日（水）に上牧町、10 月 15 日（木）に広陵町と、新たに包括的連携協定を締結しました。各地域の産業の振興、教育・文化の発展、地域づくりなどの多様な分野において、相互に連携協力をおこないます。また、各地域の課題に適切に対応することで、地域社会の持続的発展および人材育成の寄与につとめ、本学に求められる社会的使命を果たしてまいりたいと考えています。

香芝市との連携協定調印式
（左：伊藤忠通学長、右：吉田弘明香芝市長）

上牧町との連携協定調印式
（左：伊藤忠通学長、右：今中富夫上牧町長）

広陵町との連携協定調印式
（左：伊藤忠通学長、右：山村吉由広陵町長）

奈良県立大学の連携協定一覧

- ◆ 奈良市
- ◆ 一般財団法人奈良県ビジターズビューロー
- ◆ 十津川村
- ◆ 奈良商工会議所
- ◆ 奈良県商工会連合会
- ◆ 奈良県旅館・ホテル生活衛生同業組合
- ◆ 桜井市
- ◆ 御所市
- ◆ 奈良信用金庫
- ◆ 公益社団法人奈良市観光協会
- ◆ 宇陀市
- ◆ 奈良テレビ放送株式会社
- ◆ 御杖村
- ◆ 王寺町
- ◆ 高知県嶺北地域観光・交流推進協議会
- ◆ 明日香村
- ◆ 奈良県立大学学生の奈良県実施事業への参加に関する協定
- ◆ 斑鳩町
- ◆ 天理市
- ◆ 香芝市
- ◆ 上牧町
- ◆ 広陵町

※ 平成 27 年 11 月 27 日現在（高大連携を除く）

奈良県立大学〈地 (知) の拠点整備事業〉の特設サイトが開設されました

奈良県立大学〈地 (知) の拠点整備事業〉の特設サイトを設けました。本学のホームページより閲覧することができます。COC 事業の取り組み、コモンズの教育システム、４つのコモンズの講義内容と活動報告を掲載しています。

奈良県立大学
〒 630-8258　奈良市船橋町 10 番地
TEL 0742-22-4978 / FAX 0742-22-4991
お問い合わせは 月曜日～金曜日の午前 9 時から午後 5 時まで
http://www.narapu.ac.jp/

奈良県立大学大学情報誌 Vol.7（2015年11月27日発行／発行：奈良県立大学地域交流センター地域交流室　TEL0742-93-5296）